

「地域と学校の連携・協働の推進に向けた民間企業・団体等による教育活動参考事例集」  
が制作されました

平成 27 年 12 月に中央教育審議会において「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」が取りまとめられました。この答申では、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていく地域学校協働活動を推進するとともに、従来取り組んでいた学校支援活動の活動を基盤に、新たな体制として地域学校協働本部を全国に整備する事が提言されています。

さらに文部科学省では、上記答申を推進していくため、具体的な施策と工程表をまとめた「『次世代の学校・地域』創生プラン」を平成 28 年 1 月に策定しました。

この答申を踏まえつつ、本プランを着実に実行していくため、文部科学省においては地域と学校が連携・協働し、幅広い地域住民等（多様な専門人材、高齢者、若者、PTA・地域団体等）の参画により、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進しています。

この活動の一環として、子供の豊かな学びを支えるために、企業・団体等による特色・魅力のある出前授業等の学習プログラムを好事例集として制作することになりました。

本会が実施している「おさかな学習会」も「教科横断型のキャリア教育プログラム・食育」として出前授業事例の一つとして掲載されることになりましたのでお知らせ致します。

なお、事例集は 1500 部作成され文部科学省から教育委員会・学校へ配布されるとのことです。

掲載内容は下記をご覧ください。

# おさかな学習会

一般社団法人 大日本水産会

プログラム  
概要

当団体は、水産物の消費が低迷する中で、水産海洋国家としての魚食の復権を目指し、小学校おさかな学習会を1.おさかなゼミ 2.タッチプール(一部鮮魚タッチ) 3.模擬漁体験 4.調理教室の4項目について実施し、水産業界ならではの観点から子供たちに体験学習を提供します。



対象者	幼児、小学生、特別支援学校の児童・生徒	実施可能エリア	全国
テーマ	食育	対応可能日	平日授業、夏休み等の長期休暇
費用	全て無償	主な開催場所	学校
所要時間	90分 ※45分～90分でアレンジ可能	対応条件	条件はご相談ください 基本的に全学年対象(学年別実施は応相談)

活動概要

## 【活動のきっかけ】

水産物の消費が減少を続け、子供たちが海や魚に接する機会も減少してきている中で、都市部の小学生を対象に海を知り魚介類に触れ合うことで海洋国家である日本の水産業や魚の栄養について関心をもってもらい、水産物の消費減少に歯止めをかけることを目的に小学生を対象とした「おさかな学習会」を始めました。

世界では和食が健康に良いと認められ魚も積極的に食べるようになってきましたが、日本では逆に食の西洋化が進み和食に欠かせない魚の消費も減退の一途をたどっています。

こうした状況を踏まえ水産業界として魚を食べる事の大切さを伝えていく活動を行っています。

活動の特長・工夫

「おさかなゼミ」の時間中に低学年の児童でも飽きないように工夫を行っています。

### ①おさかなクイズの実施

子供の好きなクイズを出題、児童の参加意欲を高めます。

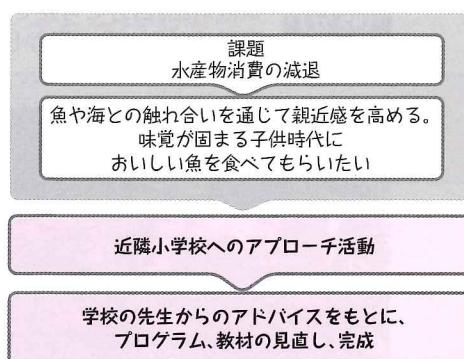
### ②漁船が実際に操業している動画を視聴

漁船が実際に操業している様子を視聴覚で捉えます。

### ③漁具・魚の骨の観察、生きた魚に触る等の体験

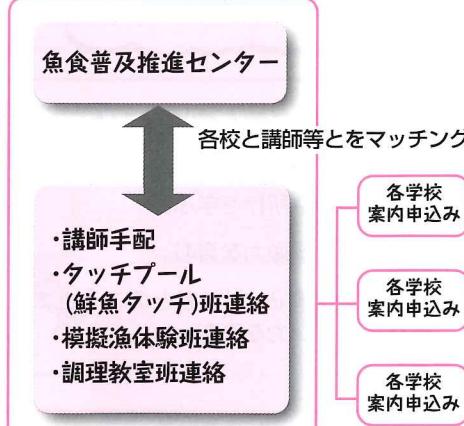
漁業を支える道具等、実物に触ることで理解を深めます。  
生きた魚に触る「2.タッチプール」は一番人気です。

## 【開発までのプロセス】



※プログラムの実施後、先生の意見を基に改良

## 【実施体制】



※メニューは各地によって異なることがあります。

プログラム  
内容

## 【ねらい】

- 日本の海洋、資源、水産業、漁業、水産加工、魚の栄養、お魚調理メニューなどの紹介をして、海を知り、魚を知り、食べることの大切さを学び、理科・社会科・家庭科などの学習と関連します。
- 事前に魚関連の「絵画・工作コンクール」や「作文・俳句コンクール」などを実施し当日表彰式をすると美術や国語の学習にもつながります。

## 【進行概要(時間・内容)】 45分×2時限

STEP1  
(45分)STEP2  
(45分)

### おさかなゼミ

寿司ネタや魚の写真から魚種名を当てるクイズの実施。  
本物の漁具の観察や迫力ある漁業操業風景を視聴し、生産現場の理解を深める。  
ライフステージにあった魚食の必要性(健康機能性)の説明。

レクチャー

映像視聴

### タッチプール・模擬漁体験

タッチプールで触り心地の違いを肌で感じることができ、初めて触る子供たちにとっては驚きの連続です。  
子供たちの質問にも専門家が答えます。

ワーク

※各学年ごとに「おさかなゼミ」と「タッチプール・模擬漁体験」をセットに実施。学年によっては「おさかなゼミ」と「タッチプール・模擬漁体験」の順番が逆になります。



児童・生徒の声

魚のことを知ったり、触ったりできて楽しかった。漁師さんの苦労がわかった。  
命の大切さがわかった。

保護者の声

調理方法だけでなく魚の基礎知識も聞く事ができ勉強になった。調理教室参加後、魚を食べる回数が増えた。

教員の声

本物に触れる体験のすばらしさを実感した。3年に一度のベースで、このような機会をつくれば子供にとって有意義なものになるであろう。

## 本プログラムのポイント

- 海洋や魚への興味・関心を高める。
- 漁業の職業理解を深める。
- 魚を通じて食の大切さを学ぶ。

## 今後の展望

現在は、首都圏を中心に実施している「おさかな学習会」を全国展開していくような体制づくりを行っていきますが、既に各地で特色のある「おさかな学習会」が実施されており、連携を図っていくとともに、地域の要望にあった対応可能な内容で行っています。

## 企業・団体連絡先:

一般社団法人 大日本水産会 魚食普及推進センター

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル  
TEL: 03-3585-6684 e-mail: osakana@suisankai.or.jp